

○解釈

あげはちょう、おじいさん犬、すずめの親子、くも、様々なところに手紙をとどける風のゆうびん屋さん。くものところには「みどりいろのふうとう」が届いた。しかし、「知らない人が見たら、くものすに 小さな はっぱがひっかかっているだけだと おもうかもしれません。」と第5場面で「みどりいろのふうとう」の正体が「小さなはっぱ」だと明かされる。知らない人とは、読者である私たちのことであり、私たちにはただの小さな葉っぱに見えている。「知らない人が見たら」と条件をつけられているということは、逆の「知っている人」がいる、と考えられる。その人は、くもの巣にひっかかっている小さなはっぱは、くもさんに届いた手紙だということを知っているのである。あげはちょうのときも、おじいさん犬のときも、知らない人が見たらただの花びらや紙切れだと思ふかもしれないものが「手紙」であることを知っている。この、風で届いたものがすべて「手紙」であることを「知っている人」とは、このお話の作者である。作者は、風で運ばれるものすべて、だれかにあてた「手紙」であることを知っているのである。

○記録

T 1	もう1回、確認するよ。登場人物教えて。
はると	風のゆうびん屋さん
めい	くもさん
すずな	あげはちょうさん
ちひろ	いぬさん
T 2	どんな犬だった？
あきら	おじいさん犬
かづき	おかあさんすずめと子すずめ
T 3	これだけ？
はると	手紙
C	手紙は人物じゃないよ
あつと	さいごのほうに、「でも知らない人がみたら」って書いてある
せりな	知らない人はでてないよ
ゆりな	でも出てないって思うけどさ・・・
T 4	ねえ、知らない人ってどうなんだろうねえ
T 5	りくとくん、ききかたがいいねえ 姿勢もいいんだけどね、こう「聞くぞ」って気持ちが伝わってくる あ、ゆうせいくんもよくなった
T 6	今日はね、ここをみんなで詠むよ（本文の拡大を黒板に貼る）
	でも、知らない人がみたら、ぎんいろにひかるくものすに 小さなはっぱが ひっかかっているだけだと おもうかもしれません。
	ちはやくん、いいねえ。目がぱって開いてる。

	じゃあ、読んでいくよ。
	くもさんに、届いたのってどんなお手紙だった？
山りくと	えっと、なんか。ちっちゃい手紙？
ころ	はっっこに小さなみどりいろのふうとうをていねいにはさみました
T 7	そうだよ、小さなみどりいろのふうとうが届いたんだよね、くもさんのところに。 なんだけど、ここだ。今日もってきたところ でも、知らない人がみたら、くもさんに届いたみどりいろの小さなふうとうは、何だったの？
ゆりな	葉っぱ
かづき	小さな葉っぱ
T 8	そうなんだよね。なんだって。
ころ	ぎんいろに光る
T 9	あ、手紙がぎんいろにひかっている？
C	ううん
ふうと	くものす (小さい声)
T 1 0	すずなさん、きこえた？
すずな	(うなずく)
T 1 1	きこえた？なんて言った？
C	くものす (周りの子が言ってくれる)
すずな	(首をかしげる)
T 1 2	いいよ、ふうとくん、息す「くものす」って、これぐらい大きな声で言ってごらん。
ふうと	くものす
T 1 3	どう？きこえた？
すずな	(うなずく)
T 1 4	ねえ、ぎんいろにひかるのはくものすだったね。 ここに小さな葉っぱがひっかかっているだけだと思うかもしれません。 このみどりいろのふうとうも、知らない人がみたら小さな葉っぱだと思うんだよね。
C	うん
T 1 5	知らない人がいるってことは・・・知らない人の逆は？
C	知ってる人
T 1 6	知ってる人、っているのかな？
C	いると思う
ころ	いるでしょ
山りくと	ぜったい1人はいるよ
かづき	いると思う
T 1 7	じゃあ、知っている人って、なにを知っているの？
かける	風のゆうびんやさん
T 1 8	風のゆうびんやさんを知っている人？

かける	ちがう
T 1 9	何を知っている人？
かける	(だまってしまう)
ちはや	風のゆうびんやさんは、くもさんに渡す手紙？が・・・
げんき	お話を知ってる
あきら	風のゆうびんやさんが、その小さな葉っぱみたいな手紙をあげたから、小さな葉っぱがひっかかっていることを知ってる
T 2 0	知らない人が見たら、ただの小さな葉っぱなんだよね。でも、それを知っている人がみたら、何に見えるの？
あきら	手紙
T 2 1	知っている人は、その小さな葉っぱが、みどりいろのふうとうだってことを知っている。じゃあ、その知っている人ってだれだ？
あやの	お手紙をかいたひと
すずな	風のゆうびんやさん
ゆりな	このお話に出ている人全員
はると	あやのちゃんとちょっと似てて、お手紙をわたされた人
ちひろ	くもさん
かづき	くものすの前をとおりすぎた人
T 2 2	いま、かづきさん言ってくれた「くものすの前をとおりすぎた人」って・・・ あげはちょうさんのときも・・・ あげはちょうさんには、どんな手紙が届いたっけ？
C	花びらみたいないいにおいの手紙
T 2 3	ってことを知ってるよね。 おじいさん犬のところは？
C	まごたちからののがき
T 2 4	ってことを知ってる。 すずめさんのときは？
C	学校のお知らせが届いた
T 2 5	ってことを知ってる あげはちょうさんの手紙のことも、おじいさん犬の手紙のことも、すずめさんの手紙のこともぜんぶ知ってる人が1人。 ゆうびんやさんが、それぞれ届けているんだよ、ってことを知っている人が1人いるんだけど、みんな気づくかな？
あきら	風のゆうびんやさん
T 2 6	風のゆうびんやさんが、みんなにとどけていることを知っている人だよ。 これ、気づいちゃったらすごいことなんだけどね。
ちはや	あげはちょう
ゆりな	この本をつくった人

T27	今、なんて言った？
C	この本をつくった人
T28	つまり、このお話を
C	つくった人
T29	このお話つくった人がいるじゃん
こころ	たけした ふみこさん
T30	みんな、最初に登場人物確認したよね？ ここにもうひとり、はいらない？
ちはや	たけした ふみこさん
T31	ね、このお話には、じつは、このたけしたふみこさんも入ってるんだよ。 ていうことは、みんな「え～ちがうよ～」って言ったけど、あつとくんの「知らない人」 っていうところはすごく大事だったんだね。

◇〈解釈について 5月例会で出た意見〉

- ・「知っている人」＝作者ではなく、すべてを見ている人。
- ・「知っている」というのは、風で運ばれるものすべてが誰かにあてた手紙であることだけではなく、あげはちょうが花の蜜を求めてずっとさまよっていたことや、おじいさん犬のまごたちが隣町の家引き取られていったことや、すずめの子どもが最近生まれたことをすべて知っている、ということ。